


 今年度  
 スローガン  
 インスパイア

いつもわが身を鼓舞し、仲間の行動を激励し、人に感銘を与える

第 25 回例会

2023. 2. 15

 会員 67 名中 46 名出席 出席率 68. 66%  
 修正 51 名出席 出席率 76. 12%  
 メイクアップ 5 名

WEBSITE!


 イマジン  
 ロータリー

例会場 クーラークリアンテサンパレス 福島市上町 4-30

開催日 毎週水曜日 12時30分~

会長 渡邊 正義

幹事 穴戸 隆司

## 会長挨拶

## 渡邊正義 会長



皆様こんにちは。先週金曜日東京銀座新ロータリー主催の植樹祭に行っていました。穴戸幹事、林パスト会長と3人で参加しましたがあいにくの雨みぞれで大変寒い植樹祭でした。式には福島の木幡市長、中央区の区長も出席しまして雨の割には大人数でした。そのあと午後からは銀座新ロータリーの例会にメークアップして大変お世話になりました。そのロータリーの卓話では在宅介護の医院長の話があり大変参考になりました。夜は二本松で会長幹事会に参加してきました。佐藤ガバナー、右近ガバナーエレクト、次年度地区大会委員長の渡辺様が参加されまして、次期地区大会の協力を要請されました。さて本日は第2530地区の地区職業委員の福西宜孝様のお話が御座います。私は職業奉仕といいますと漠然としか理解していませんので、この機会に勉強したいと思います。福西委員どうか宜しくお願い致します。

最後になりますが、4月1日にセブロータリーから14名の方が訪日します。90周年の周年記念式典に参加された各クラブに御礼にいらっしゃるのだと思いますが、その時に福島南ロータリーにもお邪魔したいとのことです。国際親善の意味も含めて、歓迎パーティを企画しておりますのでその節には何卒多くの方の参加をお願い致します。後日案内を送らせていただきます。会長挨拶を終わります。

今日はこの後、藤橋会員、國井会員のスピーチがあります。御二方宜しくお願い致します。

## ゲストスピーチ

## 「ロータリーの目的」と職業奉仕 会津若松中央 RC 福西宜孝 様



## ～金看板としての職業奉仕を～

本日は、職業奉仕の内容、本質は何なのかということ、「ロータリーの目的」を検討することなどにより考えたい。

ある組織、団体が掲げる理念やスローガンが「その組織、団体においてどんな位置を占めどのように理解すべきか」については、「その組織、団体の目的は何か」を考えることがヒントになる。ところで、ロータリーには「ロータリーの目的」があり、それは「ロータリーの友」に毎号掲載され、また各クラブでも時折唱和されている。従って「ロータリーの目的」は、ロータリーの会員が目指すべき身近な目標になっている。さらに「会員は、会費を支払うことによって、『ロータリーの目的』の中に示されたロータリーの原則を受諾したことになる。」との由(標準ロータリークラブ定款第16条)。そこでロータリーで重要なものとされている「ロータリーの目的」について検討することにより、職業奉仕の意味、内容について考える。

## 第1 「ロータリーの目的」について

1 「ロータリーの目的」の文章は、①「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。」とうたい、②「具体的には、次の各項を奨励することにある。」と述べたうえで、4項目が箇条書きされている。まず、「ロータリーの目的」の英語の原文は「The object of Rotary」であり、「object」が単数形で表示されている。そこで、一般に指摘されている通り、ロータリーの目的は、全体として一つの目的を掲げていることになる。次に、4項目の箇条書きは、①を具体化した事項なので、①の本文にロータリーの目的が集約して宣言されていると解釈される。

### ロータリーの目的 (The Object of Rotary)

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：



1. 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
2. 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
3. ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
4. 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

(RI定款第4条、標準ロータリークラブ定款第5条)

2 ①の「意義ある事業」とは、「社会に有益な事業」「世の中に役立つ仕事」という意味。次に「事業の基礎として奉仕の理念を奨励する」とは、「奉仕の理念に基づいて事業を営むように奨励する」「奉仕の理念を基本に仕事を行うように奨励する」という意味。従って、①は「奉仕の理念に基づいて社会に有益な仕事をするよう奨励し、育むことがロータリーの目的だ。」との意味だと理解される。では「奨励し」「育む」対象はだれか？ 当然に会員。すると「ロータリーの目的は、会員に対し、奉仕の理念に基づいて社会に有益な仕事をするよう奨励し、育むことにある。」という意味になる。

3 ここで「奉仕の理念に基づいて社会に有益な仕事をする。」ということは、言葉を置き換えると「職業倫理に則って世のため人のためになるような仕事をする。」こと。これはまさしく「職業奉仕をする。」ということ。従って、ロータリーの目的は「会員に職業奉仕をすることを勧め、職業奉仕をする人間に育てること。」「職業奉仕主体の育成」が目的だと私は理解。

4 では、「奉仕の理念に基づいて社会に有益な仕事をする」＝「職業奉仕」の基本となる「奉仕の理念」とは何か？ そこで、「決議 23-34」の検討に移る。

## 第2 「決議 23-34」について

1 「奉仕の理念は」何なのかについて「決議 23-34」に掲載。その決議は、1923年のセントルイス大会で34号議案として提出され可決された決議。

2 その第1節に次の文がある。「ロータリーは、自己のために利益を得ようとする欲望と、他人に奉仕しようとする義務感と、それに伴う衝動との間に常に起こる争いを和解させようとする人生の哲学である。この哲学は奉仕すなわち“超我の奉仕”の哲学であり、“最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる”という実践倫理の原理に基づいている。」（「ロータリー・モザイク」に掲載された訳文）この文章の中の「自己のために利益を得ようとする欲望」は「利己心」を、「他人に奉仕しようとする義務感」は「利他心」を意味しており、「それに伴う衝動との間に常に起こる争いを和解させようとする」は「利己心と利他心との間に起こる衝突を調和させようとする」を意味していると理解される。即ち、この文章の前段は、「ロータリーは利己と利他の調和を図る人生哲学である。」と言っている。その上で、利己と利他の調和を示す哲学として「超我の奉仕（ロータリーの第1標語）」、実践倫理として「最もよく奉仕するもの～（ロータリーの第2標語）」を挙げている。繰り返すと、ロータリーは「利己と利他の調和を目指す人生哲学」。従って、ロータリーが言う「奉仕の理念」は、「利己と利他の調和」を目指して奉仕する理念だと私は解釈する。ロータリーの目的に、「意義ある事業の基礎として“奉仕の理念”を奨励し、これを育む。」とあるのは、「利己と利他の調和を目指して社会に役立つ仕事をするように、奨励し「育成する。」という意味になり、そ

これはさらに、「利己と利他の調和を目指して社会に役立つ仕事をする職業人を育てる。」ということになる。

### 第3 職業奉仕の内容

1 以上を基に、職業奉仕の意味内容を検討する。

「ロータリーの目的」は、「奉仕の理念に基づいて社会に有益な事業を行う人間を育てること」だった。さらに、同目的2項には、「職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会として各自の職業を高潔なものとする。」と記載されている。この「高い倫理基準を保つ」や「各自の職業を高潔なものとする」という言葉を踏まえれば、同目的は、「日々の職業を、職業倫理に基づいて行う人間の育成にあること」を意味していると解釈される。加えて決議23-34は、その職業倫理として「利己と利他の調和」という基本倫理をあげている。

2 そこで職業奉仕で重要なのは、日常の仕事における職業倫理の向上である。深川純一 PG は、「(職業奉仕とは) 世のため人のために奉仕する心を持って職業を営むこと」であり、「(ロータリーとは) 人類文化史が20世紀の時代に刻印を打った職業人の最も優れた倫理運動である。」と言明される。職業奉仕は、会員が日々行う「職業を営む姿勢」の問題であるため、「生き方の姿勢」につながり、「人生論の問題」である。それなればこそ「職業奉仕はロータリーの金看板」と長年にわたり言われてきたのだろう。

### 第4 職業奉仕とロータリーとの関係—人生道場としての例会

1 今ほど述べたように、職業奉仕は会員個人が毎日の仕事に取り組む姿勢の在り方の問題である。従って、これは個人奉仕であり、ロータリーが直接かかわることではない。ではロータリーは、職業奉仕とどのように関係するのか?先程「ロータリーの目的は、会員を職業奉仕する人間に育てること、即ち職業奉仕主体の育成にある。」旨述べた。このことから言えば、ロータリーはどのようにして会員を職業奉仕主体に育成するのが問題になる。

2 人間は、日々の職業を通して生活の糧を得る。職業は、自分の利益を獲得するために行う。その日々の仕事を、自分の利益だけでなく世のため人のためを考えながら行うには、良質な人格を備えていなければならない。そこでロータリーは、「人生道場」としての例会を用意している。例会は、職業奉仕を実践できる良質な人格を形成するための自己研鑽の場である(勿論、親睦や情報交換などの意味もある)。会員は、例会で相互に知恵の交換を行い、切磋琢磨して人格の向上を図る。例会が毎週行われ(現在は緩和されたが)、会員同士が頻りに顔を合わせるのも、人間が良質な人格を保つためには不断の努力が必要なためであろう。

3 ここで、小堀憲助中央大学名誉教授の的確で美しい言葉を掲げる。「心を求めて例会に至り、境地を得て例会を去る。」。例会とは、正にこうあるべきなのだろう。

### 第5 国際ロータリー(以下「RI」という)が提示する近年の職業奉仕

1 RIは、職業奉仕に関心が薄いとされていた(元RI理事のお話)が、近年は従来の職業奉仕(本稿で上述した職業奉仕)とは異なる内容の職業奉仕を提示されるようである。RIは「職業上の手腕(スキル)を社会の問題やニーズに役立てること」に職業奉仕の重心を移したように伺われる(末尾記載の参考文献1の254頁以下参照)。

2 例えば「職業上のスキルを活かした奉仕」を考えると私見では次のようなものがあげられる。

① 会員の医師による無料診察や、会員の弁護士による無料法律相談など。

② 職業上の専門知識を持つ会員が、母校の高校で行う無料の出前授業。

これらは、生活の糧を得る職業として行われるものではない(会員は「受益者」とならない)の「従来の職業奉仕」ではない。

3 ただ、現在の標準ロータリークラブ定款第6条では、「職業上のスキルをいかした職業奉仕」も職業奉仕の定義に含まれている。そこで、上記①や②を職業奉仕というにしても、職業奉仕の範囲が広がったにすぎず、従前の職業奉仕が消失したわけではない。

私は、利己と利他の調和を目指して毎日の職業に励む人生論としての職業奉仕こそが金看板としての職業奉仕だと考える。その理論的根拠は、上述した通り「ロータリーの目的」にある。又実際上の根拠としては、職業奉仕の「宿命性」「日常性」「根源性」があげられる。これらについてのお話は、時間の関係上、別な機会に譲りたい(添付した拙稿「何故職業奉仕が金看板なのか?」をご参照いただければ幸いである。)

最後に、「金看板としての職業奉仕」の復権を願って、本稿を閉じさせていただきます。



## ご報告 築地川銀座公園の植樹祭と銀座新ロータリークラブメイクアップ

2月10日に渡邊会長、宍戸幹事、公共イメージIT委員会の林委員長の3名が築地川銀座公園の植樹祭と銀座新ロータリークラブメイクアップに参加いたしました。植樹祭には木幡福島市長も参列、渡邊会長が山本中央区長より感謝状をいただきました。





